

WEEKLY SIGNAL

平成28年9月2日(金) 1339号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	9/5(月)	9/6(火)	9/7(水)	9/8(木)	9/9(金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	+ 1,400	+ 1,000	トシ	トシ	トシ
財政他	△ 9,500	+ 1,000	+ 1,000	トシ	+ 2,000
資金需給	不 8,100	余 2,000	余 1,000	トシ	余 2,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)		交付税特会借入・償還		交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,900 国債補完 + 200 CP等買入 △ 300 成長基盤 △ 100 社債等買入 △ 100				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,700	国債買入 + 12,500 短国買入 + 7,500			
(日本)	日銀黒田総裁講演 日銀当座預金増減要因 (9月見込み)		マネタリーベースと日銀の取引(8月) 景気動向指数(7月) コール市場残高(8月)	中曽日銀副総裁講演 GDP(4-6月改定値) 国際収支(7月) 対外対内証券売買(前週分) 景気ウォッチャー調査 (街角景気8月調査)	日銀、当座預金のマクロ加算 残高の基準比率を見直し 第3次産業活動指数(7月)
(海外)	米 レバーデーターの祝日 欧 ユーロ圏総合PMI (8月改定値) 欧 ユーロ圏小売売上高 (7月) 中国 G20首脳会議 (杭州、4-5日)	米 ISM非製造景況指数 (8月) 欧 ユーロ圏GDP (4-6月確定値)	米 ベージュブック 英 カーニー総裁講演(ロンドン)	米 新規失業保険申請件数 (前週分) 米 消費者信用残高(7月) 欧 ECB金融政策発表 欧 ドラギECB総裁会見	米 ホスト連銀総裁講演 欧 ユーロ圏財務相会合

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.06 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.06 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.06 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.07 ~ 0.001

<インターバンク>

今週の日銀当座預金残高は300兆7,100億円~303兆5,000億円と推移した。普通交付税や税揚げなどの要因から301兆2,200億円と越えた。無担保コールON物は、週を通して△0.07~△0.02%のレンジで出合ったが、月末以降はやや調達を控える動きが見られた。同加重平均金利は、週初△0.046%であったが、月末は△0.048%、月初には△0.049%まで低下した。
ターム物は、8月積み期内をエンド日とする1W~3W物で△0.03~△0.015%の出合いが散見された。9月2日に実施された国庫短期証券買入オペは前週分(8月26日)より、オファー額1兆円、応札倍率1.52倍から更に2,500億円減額の7,500億円とオファーされた。応札倍率は1.81倍と前回比やや上昇する結果となった。来週の予定は、国内では黒田日銀総裁講演(5日)や、中曽日銀副総裁講演(8日)、海外では米ベージュブック(7日)やECB金融政策発表(8日)などが挙げられる。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.300 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行額は約1兆1,800億円で、期落ち額約1兆2,000億円(金融機関・ABCP除く)を若干下回った。月末発行分では償還超となっていたが、月初スタートで電機メーカーや卸売業等のまとまった発行があった。a-1格相当銘柄の9月末を越える入札発行レートについては、ディーラーの強い札が散見され、0%割れでの出合いもあった。現先レートの中心は、-0.100%~0.000%程度で推移した。来週の期落ち額は5,100億円程度となっている。

<TDB>

9月1日に国庫短期証券3M630回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.2304%(前回債△0.2104%)、平均落札レートは△0.2425%(前回債△0.2280%)となり、前回分から利回りは低下した。セカンダリー3Mは△0.26%近辺での出合い。6M、1Yは目立った出合いは見られなかった。来週は7日に6M、8日3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

月末初受渡となる週初の出許GCは、SNで△0.10%近辺の出合いが見られたが、TNでは△0.09%台が出合いの中心となった。9月受渡以降は週末まで概ね△0.085%~△0.09%の出合いが続いた。SCは10年343回債がON物で△0.30%~△0.40%台の出合い。他カレント銘柄では2年366・367回債のbidが多く、366回債は△0.40%台で多く取引されていた。その他、5年127・128回債、10年325・330・334・335・336・338・340・341・342・343回債、30年49・50回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更される場合があります。